

特集

新潟大学を語る

message

～旅立ちの日～

卒業・修了する学生からのメッセージ

人文学部 地域文化課程

町田 由布子

教育人間科学部 学校教育課程

藤井 信一郎

法学部 法学科

山崎 勇辰

経済学部 経済学科

津幡 望

理学部 数学科

綿田 晃夫

医学部 医学科

比嘉 研

医学部 保健学科

鈴木 顕子

歯学部 口腔生命福祉学科

丸山 美嶺

工学部 化学システム工学科

梁 暁芸

農学部 生産環境科学科

本間 哲郎

大学院 教育学研究科 教科教育専攻

小野 美幸

大学院 教育学研究科 教科教育専攻

竹内 喜紀

大学院 保健学研究科 保健学専攻

船久保 夏菜

大学院 現代社会文化研究科 地域社会形成論専攻

楊 夫高

大学院 自然科学研究科 材料生産システム専攻

曾根 浩司

大学院 歯学総合研究科 地域疾病制御医学専攻

高野 智洋

卒業生・修了生からメッセージを集めました。
新潟大学を旅立つにあたり、
いろいろなことがありました。
入学してから、学業、スポーツ、交友、
ボランティア活動、アルバイトなど、

● 人文学部 地域文化課程

MACHIDA, Yuko

大学生活を振り返って

町田 由布子

大学生活の4年間は本当にあつという間だった。そう感じるのはいはり大学生活が自分の中で楽しいものであった証拠であると思う。これだけ自由に自分らしく生きられる時間はおそらくもうないだろう。思い起こしてみれば、大学入学当時は今までと全く違う土地での生活への不安がとても大きかったが、時間がたつにつれて様々な人と出会い、様々な話をして、感情を共有していくことによって、不安は大学生活を心底楽しむ感情へと変わっていった。もちろん楽しいことばかりではなく、それなりに辛いことはあったが、今になって考えればそれらのこともあってこそその大学生活だったと思う。特に大学生活の中で大きい比率を占めていたオリエンテーリング部で過ごした時間は貴重なものであった。そこでかけがえのない仲間と出会い、共有した思い出を決して忘れず、次のステップへと向かっていきたい。



オリエンテーリング部の仲間と 奥が本人

● 教育人間科学部 学校教育課程

FIJII, Shinichiro

卒業、そして新たなステップへ

藤井 信一郎

入学してから、かれこれ4年がもう過ぎようとしている。小中高校の友達とは離れてしまい、まったくの無の状態からスタートした大学生活。不安は色々あったが、やり通したことが1つある。それは、学業だろうが人間関係だろうが、まず夢に向かうということ。夢は夢だと思っている限り、正夢にはならない。行動を起こさなければならない、と思い起こした結果、アメリカへの留学、日本・アメリカの大学院に合格、と大学生活における目標は達成された。もちろん学業の面だけではなく、部活動やその他の面でも、目標は達成でき、大学生活はとても充実していた。

1つ気づいたことがある。大学生という立場は、働く社会人としてしっかりと勉強する高校生との間をつなぐ大きな橋のような役割を担っている、ということ。この大切な時期の経験はとても貴重だった。新潟を離れるのは寂しいが、この新潟での貴重な経験を基に、新たな場で頑張っていきたい。



ホームステイ先にてホストファミリーと 本人は左から3人目

● 法学部 法学科

YAMAZAKI, Yushin

新潟大学を卒業するにあたって

山崎 勇辰

月日が流れるのは早いもので、もうすぐ卒業だ。思い返してみれば、大学生活の4年間を通して様々な経験をした。そのなかでも、思い出されるのは4年間過ごした下宿での生活と3年から所属したゼミでの活動である。下宿では違う大学や専門学校の生徒も入居していたため、自分とは異なる分野を専攻する人たちの話を聞くことができ、とても有意義な時間を送ることができた。また所属したゼミでは学会やワークショップに参加させていただき、教科書に載っている事件の当事者の方やさまざまな職種の方々と話す機会を持つことができた。こうした経験は就職活動において活かすことができたし、またこれからの社会人としての生活の中においても、きっと生きてくるものであると思う。

この4年間の多くの出会いや、経験は自分を成長させてくれたと思う。両親をはじめ、友人や先生方などお世話になったすべての人に感謝したい。



本人は左から4人目

● 理学部 数学科

WATADA, Akio

4年間を振り返って

綿田 晃夫

新潟大学で過ごしたこの4年間はとても充実したものでした。最高の仲間、すばらしい先生方、最高の環境がすべてそろっていました。

大学全体では改修工事がなされ、勉強をするための環境がより良くなりました。先生方については、勉強においてわからないことがあった時はいつでも質問ができる環境があり質問を受けてくれました。勉強の仕方などのアドバイスもしてくれましたし、悩んでいることがあればその相談も親身になって聞いてくれました。

そして、なんとと言っても最高の仲間と勉強できたことがとても良かったです。友達とひとつの問題に対して議論をしたりしました。時には考え方の違いから白熱することもありましたが、とても貴重な時間をすごせました。ここで出会った仲間は一生の仲間になると思います。

このような貴重な経験ができたのは最高の仲間に出会えたからだだと思います。この新潟大学での4年間は本当にすばらしい4年間でした。



本人は左から2番目

● 経済学部 経済学科

TSUBATA, Nozomi

出会いに感謝

津幡 望

この四年間の大学生活を振り返ってみると、本当に多くの人たちとの出会いがあった。私が大学生活を無事に楽しく過ごすことができたのは、一生付き合っていけるような、そんなかけがえのない友人との出会いがあったからこそだと思う。

特に、ラクロス部の仲間は特別だった。先輩や後輩、そして同学年の仲間と一つの目標に向かって、汗を流し、涙を流し、そして沢山笑って頑張ってきた。部活を続けてきて本当によかった。

近頃、一人暮らしを始めた頃の自分が懐かしい。あれからもう四年も経つのかと考えるとすごく早い気がするが、今の友人達とまだ出会ってなかったことを思うと、時の重みをすごく感じる。

様々な出会いこそが、自分を成長させてくれたと思う。私に関わってくれたすべての方にお礼を申し上げたい。



本人は中央

● 医学部 医学科

HIGA, Ken

卒業するにあたって

比嘉 研

理想に燃え、再受験をして医学部に入学したが、卒業へ漕ぎ着けるまでに実に11年かかってしまった。ある時何がズレ始め、そこで立ち止まってしまった。自分では歩いているつもりだったが、そこは広い広い踊り場で、次の階段がどこにあるのか見当もつかなかった。理想ばかりで地に足がつかず、現実との距離を測れなかった。

できることなら取り戻したい時間ではあるが、自分にはそれだけの時間が必要だったのだと思い込むことにする。踊り場を歩き続けたことで、理想を現実には当てはめるのではなく、具体的な目標を胸に、目の前にある現実に対処していける体力と知恵を身につけ、気を練ることができたのだと。

有形無形の援助をしてくれ、長い目で見守ってくれた方々、特に両親には感謝しています。恩返しできるとすれば、それは医師としての人生を全うすることしかない。そのことを忘れず、人生で最も長い時間を過ごしたこの新潟の地を旅立とう。



ドラムを叩いているのが本人

● 医学部 保健学科

SUZUKI, Akiko

卒業するにあたって

鈴木 顕子

臨床検査技師になるという目標を持って入学してからは4年。入学当初は全く医療の知識などなかった私が、この4年間でどれだけ成長したのか成果を発揮する国家試験が卒業前にあります。資格を取得するために実習、講義にと一生懸命取り組んできたのですが、それ以外にも大学生活ではたくさんものを得ることができました。その中の1つが友人との出会いです。

検査学科は40人のクラス制なのでクラス全体が仲良く、真面目な話だけでなく、冗談を言い合える友人達と出会うことができました。また、サークルでは様々な学部の人達と接し、視野を広げることが出来ました。このクラス、友人達だったからこそ、私にとって大学生活が楽しい思い出になったのだと思います。

これから医療従事者になると思うと不安はありますが、大学生活で培ったことを生かして頑張りたいと思います。そして、大学で出会った友人達との繋がりをこれからも大事にしていきたいです。



瀬波修学旅行での遊覧船のりばにて 本人は中央

● 工学部 化学システム工学科

LIANG, Xiaoyun

感謝の日々

梁 晓芸

「一度きりの大学生活だから私にしか出来ないものに」と、日本に留学に来ました。新潟大学工学部で過ごした日々は、本当に私を大きく成長させてくれました。言い尽くせないほど沢山のことを学び、他では決して出来ない様々な経験をし、そして何よりかけがえのない先生達と友人達と出会う事が出来ました。やっと日本語が少しずつ慣れるようになった時、難しい授業のテストを受かった時、初めて日本人の友達が出来た時、大親友と同じ研究室に入った時の喜びは、今もはっきり覚えています。

留学生活で最も印象的なことは、研究室にいた1年間でした。本当に休む間もなくハードな研究生活でしたが、沢山の失敗の後に目的を達成した時の喜びは格別でした。今はやっと「夢を実現するための実力をつける訓練期」と、先生がいつも言ってくれたことを実感しました。この4年間は人に恵まれた学生生活でした。先生、先輩、友人の方々、お世話になった皆様に感謝しています。



本人は前列左端

● 歯学部 口腔生命福祉学科

MARUYAMA, Mirei

卒業にあたって

丸山 美嶺

長い、4年間だった。2年次、すでに履修申請とは縁のない存在となり、歯科の知識を頭に詰め込んだ。3年次、歯科の知識で染まった頭に、さらに福祉の知識を叩き込む。手から砂がこぼれ落ちるように、歯科の知識が頭から抜けていくのが手に取るようにわかった。4年次、ただひたすらに診療室と自宅との往復を繰り返した。季節の移り変わりと共に、福祉の知識が頭の中から薄れていくのを感じた。

私たちは、「学部どこ？」と聞かれるのが嫌いだった。なぜなら、かなりの確率で「すごい!じゃあ歯医者さんになるんだね」という反応が返ってきたからである。そう、私たちの存在はあまり知られていなかった。自分たちの存在を疑問に思うことも多々あった。しかし、そんな日々から今解放される。そして、私たちの価値はこれから決まるのである。歯科衛生士・社会福祉士というダブルライセンスの私たちが、いかに役に立つか、温かい目で見守っていただきたい。



本人は中段中央

● 農学部 生産環境科学科

HONMA, Tetsuro

4年

本間 哲郎

今思うと4年間の大学生活はとてもはやく、充実していた。特に4年生の1年間は全力疾走で駆け抜けて来てしまったような気さえする。就職活動、研究、部活とどれも妥協できないものばかりで毎日が忙しかった。日々の生活の中でいろいろなことを考えさせられ、成長できた1年であったと思う。その中でもラグビー部での思い出は特別だ。大学生活の中でここまで熱くなれる場があるとは思っていなかった。全員で1つの目標に向かって本気で意見をぶつけ合った。暑い日も雪の日もグラウンドで練習した。嬉し涙も悔し涙も流した。4年生の代表決定戦で勝ったときは本当に嬉しかった。間違いなく一生忘れないであろうと思える瞬間があった。部活の同期にはとても感謝している。友達、先輩、後輩、先生方、両親、...すべての人のおかげで今の自分がある。新潟大学で過ごした4年間と関わってきてくれた方々への感謝の気持ちを忘れずに生きていきたいと思う。



試合後、4年生で 本人は後列左から2人目

● 大学院 教育学研究科 教科教育専攻

ONO, Miyuki

大学を修了するにあたって

小野 美幸

私は大学生とは、興味のあることに燃える学生だと考えていました。今振り返ってみると、これを少なからず達成できたと思います。色々な講義をとって、新しい知識を増やし、サークル活動で様々な国の人と出会ったり、充実した学生生活をおくっていました。

「興味のあることに燃える」、その最たるは、やはり研究活動でした。自然環境について学びたいと選択した陸水生態学の研究室で、水生昆虫の研究をしてきました。野外調査や学会発表など、やってみたいことを次々と経験してきました。それはただ楽しい・面白いことだけではありませんでした。もっとやれること、すべきことがあったのに、自分の弱さに勝てず、思うように作業が進められず、達成できなかったという反省もあります。これからは、同じような反省のないよう計画性をもって進んでいきたいと思っています。

そしてこんな私に付き合い、見守り、助言をくれたみなさん、ありがとうございました。



胎内ナゲシ沢 本人は中央

● 大学院 保健学研究科 保健学専攻

FUNAKUBO, Kana

修了するにあたって

船久保 夏菜

「本当にあっという間の2年間だった」というのが今、一番思うことです。講義や実習に追われていた学部生の時とは異なり、自分で実験計画を立て実行していく日々は、失敗も多く時には落ち込むこともありましたが、しかし、その苦労の何倍もの楽しさや達成感を知ることができ、気がつけばあっという間に修了の日を迎えてしまいました。

この2年間を充実したものにできたのは、何といっても仲間の存在だと思います。同期は勿論、先輩方の姿を見て良い刺激を受けることも多々ありました。時には研究を離れ、お酒を飲みながら過ごした時間も、忘れられない思い出です。

このような思い出が詰まった場所を離れるのは寂しいですが、また新しい人間関係を広げ、今まで以上に充実した日々を送れるように努力していきたいと思っています。

最後になりましたが、長期に渡り御指導下さいました先生方に御礼申し上げます。本当に有難うございました。



● 大学院 教育学研究科 教科教育専攻

TAKEUCHI, Yoshinori

修了するにあたって

竹内 喜紀

私は、他大学の工学部を経て、本大学の教育学研究科(数学教育専修)に入学しました。工学部在籍中より、教職課程を受講し、将来は教職に就きたい気持ちが強くなり、本研究科で教科教育を中心に学び、考えを深めていきたいと思ったからです。研究科の方針と指導教授の勧めもあり、大学院1年次には付属中学校、2年次には新潟市立白新中学校へ1年間、定期的に通り、現在の新潟県の教育現場の実情、現場の先生の教育実践や生徒との触れ合いをとおして、教師という仕事について教育実践を中心に考えを深めることができました。

白新中学校の研究発表会にて学習支援ボランティアとして参加したときの写真が、私の思い出の一枚です。個別支援という形で生徒と向き合い、『教える喜び』を感じることができました。大学院を修了するにあたり、こうした体験をとおして学び得たことは、私にとっての一生の宝物です。



白新中学校の研究発表会

● 大学院 現代社会文化研究科 地域社会形成論専攻

YANG, FuGao

新たなスタートライン

楊 夫高

『平家物語』の世界に好奇心を持ち、五年半前、私は胸をふくらませて中国から新潟大学に留学してきた。今でも初めて大学のキャンパスを歩いた時の、半分憧憬、半分不安の気持ちを鮮明に覚えている。

外国人である私にとっては、日本古典文学へのチャレンジは決して容易なことではなかった。研究の基礎となる古語、古文の勉強は勿論、『平家物語』をいかに読むべきかという根本的な課題に取り組み、さらに自ら問題提起して裏付けるという研究の基本的姿勢を身に付けるために、必死に努めてきた。このような姿勢は、修了後、どんな環境に置かれても、持ち続けて行きたいと思う。

この間、紆余曲折があった。しかし今は、念願の修了を迎えることを素直に喜びと同時に、先生、家族、周囲の皆様方に深く感謝したい。

新潟大学で、私は自分の夢を見つけ、新たな勇気を頂いた。これから、新たなスタートラインに立つ私は、中国で日本の古典文学の魅力を広げていきたい。



研究室にて

修了するにあたって

曾根 浩司

私が新潟大学に入学してからもう9年の月日が経とうとしている。振り返れば、入学する前までは「将来、自分が何をしたいか?」という問いに対する具体的な答えをもっていなかった。大学で化学をもっと勉強したいという思いはあったが、自分が本当にやりたいことが大学で見つかるのだろうかという不安もあった。

大きな転機となったのは、4年生になり研究室に配属され指導教員である八木先生の指導の下、卒業研究に取り組むことになったことであった。先生には時には厳しく、時には優しく研究の指導をして頂いた。そこで「研究とは何ぞや」を教えてください、研究に対する興味が深まっていった。そして、研究室での経験を通して「研究」という「自分がやりたいこと」を見つけることができた。これは、これからの人生において大きな財産であると思う。最後に、この場を借りて家族、友人、先生方、先輩方、これまでお世話になった全ての方々から感謝申し上げたい。



研究室のメンバーと 本人は後列右から2人目

新潟大を修了するにあたり

高野 智洋

博士課程は本来4年間のコースであるが、1年間短縮して、私はこの3月に3年次で修了予定である。振り返ると大学院生活はチャレンジの連続であって、毎日が瞬間に過ぎていった。国内外の学会での発表では、普段論文で名前しかみることができなかった先生に実際に会って話せて感動を覚えたことがあった。冷や汗をかいたような気もする。研究は日々の積み重ねであるが、方向性と到達点を定めることが困難で、立ち止まることも間々あった。論文を作り上げるといふ重圧は大きく、採択された時は本当にうれしかったが、やっとこれで解放されたという気持ちが大きかった。この3年間はまさに自分との戦いであった。修了できるのは、これも偏に教授を始め、教室のスタッフの指導と協力があってからである。感謝の気持ちで一杯である。

大学院博士課程で学んだ多くを今後に関し、自らを着実に成長させる糧にしていきたいと思う。新潟大学で学べたことに感謝致します。



研究室のメンバーと 本人は後列右から4人目

特集

新潟大学を語ろう

～旅立ちの日～

Message

退任する教員からのメッセージ

理事(教育担当)・副学長
河野 正司

人文社会・教育科学系
(大学院現代社会文化研究科) 教授
小林 昌二

理事(研究担当)・副学長
板東 武彦

人文社会・教育科学系
(大学院現代社会文化研究科) 教授
井上 正志

人文社会・教育科学系
(教育人間科学部) 教授
小林 昭三

自然科学系
(大学院技術経営研究科) 教授
柘田 正美

自然科学系(理学部) 教授
金子 恒雄

災害復興科学センター教授
青山 清道

自然科学系(理学部) 教授
小林 迪助

自然科学系(理学部) 教授
渡辺 勇一

自然科学系(理学部) 教授
山岸 宏光

歯学部(医学部) 教授
石原 清

自然科学系(工学部) 教授
丸山 武男

自然科学系(工学部) 教授
田口 洋治

自然科学系(工学部) 教授
大熊 孝

自然科学系(工学部) 教授
小林 敏志

自然科学系(農学部) 教授
荒谷 明日兒

自然科学系(農学部) 教授
池田 武

新潟大学への思いを語っていただきました。
長きにわたって
さまざまな研究を行い、
学生たちに多くを伝えてきた先生方。
この春退任される先生方に、